

韓国STX造船所の現状と 発展戦略に関する調査

2011年3月

社団法人 日本中小型造船工業会
財団法人 日本船舶技術研究協会

はじめに

リーマンショック以降に発生した国際金融危機は、中国を含めた世界三大造船国に対して、一時的に大きな影響を与える結果となった。中でも、韓国造船事業者は、海外の輸送船の多くが運航停止となり、契約キャンセル又は引き渡し遅延等の直接的影響を強く受けるに至った。これは、ヨーロッパ船主の多くがヨーロッパ金融機関からの貸付金により建造を発注しているが故に、違約金を支払ってまでも契約キャンセル等を行うしかなかったことや、他国と比較し、韓国造船事業者に対する発注の前払金が少ないという契約要件が原因となっていた。契約キャンセル等の船種も、ばら積み貨物船から 1 万 TEU 級以上の超大型コンテナ船に至ったとされている。

こうした影響から、韓国大手造船企業においては、流動資金の確保が喫緊の課題となった。このような資金不足は、新規受注の急減に伴う前払金の減少が主要因と見られた。韓国政府も、資金難に直面した韓国中小造船企業等に対し、韓国経済における輸出総額の 10% に当たる 7 兆ウォンを資金援助するとともに、国内外の船主向けに 11.5 兆ウォンを出資する（韓国船舶金融制度）などの対策を講じた。その後、受注が徐々に持ち直し、造船業界は一応の安定化を見せた。

一方、韓国造船業界の風雲児とも目される STX 造船所は、韓国新興造船所の代表格のみならず、世界をリードする韓国造船企業の 5 指に入る巨大企業であり、特にヨーロッパとアジア諸国に造船所の積極的展開を図る特徴的な企業戦略を有している。大連の長興島造船基地への進出もいち早く決断、決定するなど、新興造船所ならではの決断の早さは世界屈指といえる。他方、急速な拡大成長路線は、経営安定力の観点からは、時には大きなリスクを伴う。巨大カンパニーへの到達を目標に拡大し続けてきた STX 造船所は、過去、我が国造船業が抱えた設備過剰という歴史的課題に今後どのように対処するのか。未知の領域での経営手腕にその真価が問われる。

本調査は、日本と並ぶ造船大国となった韓国の大手造船企業の経営戦略について、企業リスク等の観点から最も注目される STX 造船所を調査対象とし、その経営状況（設備状況、財務状況等）に関し実態調査するとともに、韓国政府の支援策の内容および活用状況を含め、STX 造船所の今後の発展動向を整理し、将来展望について評価分析を図り、今後、我が国造船関連事業者が国際企業戦略、海外投資、海外取引を検討する際の参考に資することとする。

ジェトロ大連事務所船舶部
（社団法人日本中小型造船工業会共同事務所）
ディレクター 織田 陽一

目 次

第 1 章 企業紹介	1
1.1 企業概況	2
1.2 会社構造	2
1.2.1 子会社及び関連会社	2
1.2.2 株主情報	2
1.3 企業歴史	4
1.4 企業管理	4
1.4.1 管理チーム	4
1.4.2 社員	7
1.4.3 主要機構	8
1.5 企業文化	8
1.5.1 企業価値観	8
1.5.2 会社の社会責任	9
1.5.3 企業流れの改善	9
第 2 章 筆頭株主分析	11
2.1 会社概況 (STX Corporation)	11
2.2 主要業務	11
2.2.1 貿易	11
2.2.2 造船業務	12
2.2.3 船舶管理業務	12
2.3 株主構成	12
2.4 融資状況	13
2.5 役員情報	15
2.5.1 取締役会長	15
2.5.2 取締役会副会長	16
2.5.3 CEO	16
2.5.4 取締役会メンバー	16
2.6 職員情報	17
2.7 生産規模	17
2.8 財務状況	18
2.8.1 貸借対照表 (単位: 千ウォン)	18
2.8.2 損益計算書 (単位: 千ウォン)	20
2.8.3 キャッシュフロー計算書 (単位: 千ウォン)	21
2.8.4 財務分析	23
2.9 業務状況	24
2.10 将来展望	25

第 3 章 主要製品及び造船所概況	26
3.1 主要製品	26
3.1.1 液化天然ガス（LNG）運搬船/液化石油ガス（LPG）船	26
3.1.2 超大型タンカー	26
3.1.3 コンテナ船	27
3.1.4 超大型鉱石運搬船及びばら積貨物船	27
3.1.5 郵船及びフェリー	28
3.1.6 海洋構造物	29
3.2 造船所概況	30
3.2.1 STX 造船海洋の各造船基地状況	30
3.2.2 STX 造船海洋関連会社状況	34
第 4 章 技術及び研究開発	38
4.1 研究開発センター紹介	38
4.2 主要研究方向	38
4.2.1 流体技術	38
4.2.2 構造と揺れ減少技術	39
4.3 研究成果	40
4.3.1 天然ガス生産技術	40
4.3.2 極地における技術	40
4.3.3 滑走式進水システム関連技術	40
4.3.4 海上における組立技術	40
4.3.5 溶接自動化技術	41
4.3.6 自動装飾システム	41
第 5 章 受注分析	42
第 6 章 財務分析及び予測	45
6.1 貸借対照表（単位：千ウォン）	45
6.2 損益計算書（単位：千ウォン）	49
6.3 キャッシュフロー計算書（単位：千ウォン）	50
6.4 財務分析	52
第 7 章 戦略的な事業展開	56
7.1 全体的戦略	57
7.1.1 主要業務の転換	57
7.1.2 外国市場開拓	57
7.1.3 多元化均衡発展	57
7.1.4 省エネ・環境保全船型の開発	58
7.2 ヨーロッパ戦略	58
7.2.1 アーケル・ヤーズ造船の買収過程	59
7.2.2 アーケル・ヤーズ（STX ヨーロッパ）の概況	60

7.2.3	STX ヨーロッパ概況	61
7.2.4	買収前後の変化	63
7.2.5	STX ヨーロッパの地域統合	67
7.3	中国大連戦略	68
第 8 章	政府補助と政策研究	71
8.1	韓国造船業への支援策	71
8.1.1	船舶輸出における支援策	71
8.1.2	流動資金の提供	74
8.1.3	川上市場船用機器産業への政策	74
8.2	STX 造船海洋が受けた政策支援	75
第 9 章	融資関連	78
第 10 章	関連会社分析	81
10.1	STX Pan Ocean	81
10.1.1	基本情報	81
10.1.2	株主構成	81
10.1.3	役員	81
10.1.4	職員状況	82
10.1.5	業務状況	82
10.1.6	財務状況	82
10.1.7	将来展望	87
10.2	STX Europe	87
10.2.1	基本情報	87
10.2.2	株主構成	87
10.2.3	役員	87
10.2.4	職員状況	88
10.2.5	業務状況	88
10.2.6	財務状況	89
10.2.7	将来展望	94
10.3	STX (大連) 重工有限公司	94
10.3.1	基本情報	94
10.3.2	株主構成	95
10.3.3	管理職	95
10.3.4	生産状況	95
10.3.5	財務状況	96
10.3.6	将来展望	100
10.4	STX (大連) 海洋重工有限公司	100
10.4.1	基本情報	100
10.4.2	株主構成	100

10.4.3	管理職	100
10.4.4	生産状況	101
10.4.5	財務状況	101
10.4.6	業務状況	105
10.4.7	将来展望	105
10.5	STX（大連）エンジン有限公司	105
10.5.1	基本情報	105
10.5.2	株主構成	106
10.5.3	管理職	106
10.5.4	生産状況	106
10.5.5	財務状況	106
10.5.6	業務状況	110
10.5.7	将来展望	110
10.6	STX 重工（撫順）有限公司	111
10.6.1	基本情報	111
10.6.2	財務状況	111
10.7	STX 大連基地の中国政府との協力	115
10.7.1	温家宝中国総理、STX 大連基地視察	115
10.7.2	中国の銀行から融資獲得	115
10.7.3	大連エンジンプロジェクトが中国から融資を獲得	116
10.7.4	李 克強中国副総理、STX 大連造船基地見学	116
第 11 章	競争相手及び SWOT 分析	117
11.1	競争相手分析	117
11.1.1	競争相手概況	117
11.1.2	競争相手分析	119
11.1.3	国際金融危機への主要対策	121
11.2	SWOT 分析	124
第 12 章	国際金融危機による影響	125
12.1	生産コスト	125
12.2	新規受注量	125
12.3	STX 造船海洋の国際金融危機対応策	125

第 1 章 企業紹介

1.1 企業概況

STX 造船海洋株式会社（以下「STX 造船海洋」）は 1967 年 4 月設立、登録資本金は 1,800 億ウォン、社員数は合計 9,132 人である。現在、当該社は世界 4 番目の海洋構造物及び船舶建造のグループ企業である。

STX 造船海洋はばら積貨物船、プロダクトタンカーから LNG 船、超大型タンカー、超大型コンテナ船、超大型鉱石運搬船及び海洋構造物までの様々な船種を建造している。その他の高付加価値船建造領域にも足を踏み入れ、世界造船市場での立ち位置を固めた。

船舶建造業務以外に、STX 造船海洋は海洋構造物にも力を入れており、2007 年には、オフショアパイプライン敷設工事、2008 年には、ドリルシップ及び浮き屋根式タンク、2009 年には 2 隻の 11,800DWT 自航式浚渫船及び 6,500DWT の Side Stone Dumping Vessel を受注し、僅か 3 年間で海洋構造物建造領域において大きく成果を上げた。

項 目	内 容
会社名	STX 造船海洋株式会社
企業形態	上場会社
所属業界	造船
会社設立	1967 年 4 月
本社所在地	韓国鎮海（ジンヘ）
代表取締役	Duk - Soo Kang
登録資本金	1800 億ウォン
社員人数	9132 人（2009.03）
親会社	STX Corporation
ホームページ	www.stxship.co.kr

1.2 会社構造

1.2.1 子会社及び関連会社

会社名	国名	持ち株比率
STX Pan Ocean Company Ltd	韓国	12.40%
STX Heavy Industries Company Ltd	韓国	94.10%
STX Energy Company Ltd	韓国	17.60%
STX Norway AS	ノルウェー	66.70%
STX (Dalian) Shipbuilding Company Ltd	中国	40.00%
STX (Dalian) Heavy Industry Company Ltd	中国	40.00%
STX (Dalian) Precision Engineering Company Ltd	中国	40.00%
STX (Dalian) Business Center Company Ltd	中国	100.00%
STX Real Property Development (Dalian) Company Ltd	中国	30.00%
STX (Dalian) Ocean Heavy Industry Company Ltd	中国	100.00%
STX 遠東造船所		50.00%

1.2.2 株主情報

1.2.2.1 株式構成

株主名称	株数	持ち株比率	標準価値 (千ウォン)
STX Corporation	25,872,365	35.93%	64,680,913
社員持株会	749,726	1.04%	1,874,315
在庫株	1,159,969	1.61%	2,899,923
その他	44,222,635	61.42%	110,556,587
合計	72,004,695	100.00%	180,011,738

出所：会社年報

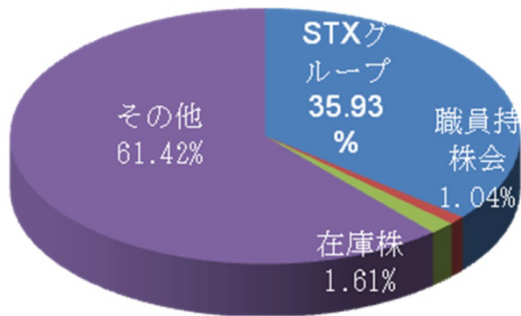
1.2.2.2 主要株主分析

STX 造船海洋の最大株主である STX Corporation は 2001 年設立した造船をメイン業務にしているグループ企業である。STX Corporation は次のような 4 大事業部、造船機械事業部、海洋運輸貿易事業部、工場及び建設事業部、エネルギー事業部を設置している。また、STX Corporation の経営特徴でもある社員持株会は職員に対する激励制度として、職員の収入を増やすと共に、会社に対する忠誠度を高めている。

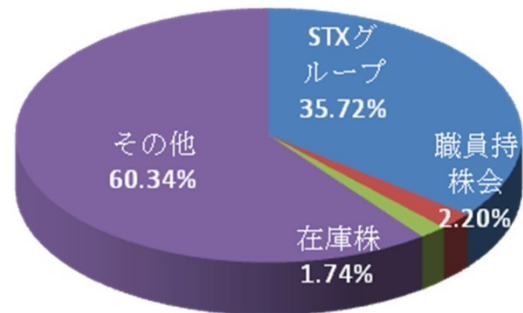
1.2.2.3 株主変化

STX Corporation の持ち株比率は比較的安定し、約 35%を維持している。(2009 年少し増資) 2007 年、当時第 3 株主であったリーマンブラザーズとドイツ銀行は国際金融危機の影響で撤退し、社員持ち株会の持ち株比率も 2007 年の 3.3%から 2009 年の 1.04%に減少した。

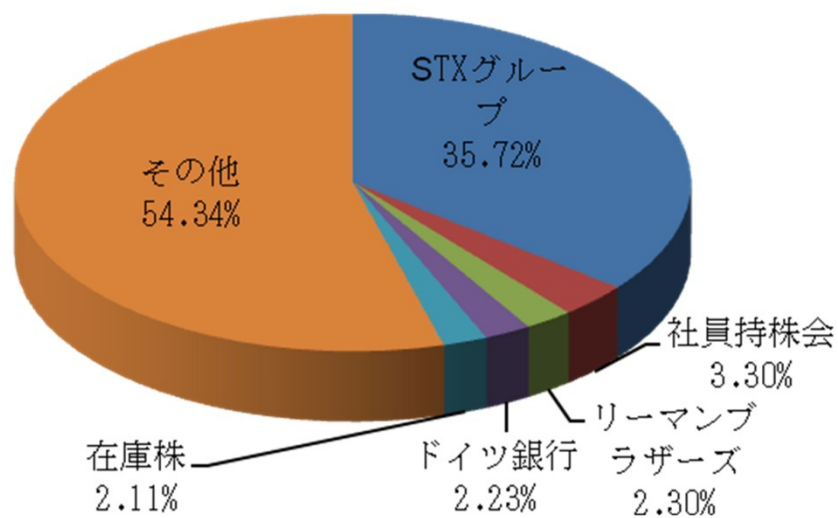
2009 年 株主構成



2008 年 株主構成



2007 年 株主構成



1.3 企業歴史

2009年	STX造船海洋株式会社に改名
2008年	ドライドック造船の世界記録を更新（28隻/年） 20億ドル輸出賞を獲得 2008年度KMAC生産効率賞獲得 Aker造船所を買収
2007年	陸地造船周期比率の世界記録を更新（15隻/年） LNG運搬船初受注 2007年度ロイド上場会社賞を獲得（船舶産業） 2007年度KMAC生産効率賞獲得 国防任務を受託 Cheong, Kwang-Seok代表理事長、ワールド経済管理ベストスター賞獲得 韓国大手企業ベスト技術開発賞を獲得
2006年	10億ドル輸出賞を獲得 中国大連工業基地投資契約を締結 陸地最短造船建造時間の世界記録を更新（30日）
2005年	6億ドル輸出賞を獲得 2005年度JMAC一等賞を獲得（全体および研究開発） 2004年ベスト船舶に選定
2004年	世界初滑走式進水システムSLS方法を開発 2004年度JMAC一等賞を3つ受賞（全体、高価値及びCEO） 韓国ベスト実践賞獲得 グローバルビジネス経営大賞を受賞 STX PAN OCEAN（株）を買収 2004年度韓国企業トップ100にランキング
2003年	5億ドル輸出賞獲得/工業貢献2等賞受賞 上場 次世代成長産業代表企業に選定
2002年	ベストタンカーおよびコンテナ船賞を受賞 3億ドル輸出賞を獲得 STX造船所に改名

2001年	(株) STXが筆頭株主になった。
1995年	5千万ドル輸出賞を獲得
1994年	鎮海造船所建設
1973年	大東造船(株)に改名
1967年	東洋造船工業(株)設立

1.4 企業管理

1.4.1 管理チーム

2010年5月20日時点

姓 名	役 職	勤務開始日
Kang Deok Su	会長及び共同 CEO	2005年9月12日
Lee Yin Seong	副会長	2007年1月1日
Hong Gyeong Jin	社長	2009年11月12日
Jung Gwang Seok	社長	—
Kim Gang Su	社長	—
Ahn Gil Yong	社外取締役	2005年1月1日
Yoon Yeon	社外取締役	—
Kim Sang Gap	社外取締役	2009年3月27日
Nam Yik Hyeon	社外取締役	—
Jung Wun Oh	社外取締役	2007年1月1日
Lee Jun Bong	社外取締役	2007年1月1日
Lee Yun Wu	社外取締役	—

1.4.1.1 会長

姓 名	Kang, Duk－Soo
学歴	明知大学商業管理学士学位
	ソウル国立大学世界管理トレーニング計画証書
	昌原国立大学商業管理荣誉博士学位
主要職歴	双龍重工 CEO
	STX 株式会社 CEO
	STX 船務/STX 造船海洋/STX エンジン/STX エネルギーCEO
	現在：STX ビジネスグループ取締役社長
外部役職	大邱工商業議会議員
	昌原工商業議会議員
	韓国船主協会副主席
	韓国造船協会総監督
	現在：韓国工業連盟副主席
	韓国雇主連盟副主席
	韓国国際貿易連盟副主席
受賞状況	2003 年度韓国工業サービス銀タワー賞
	2003 年度日本管理協会世界 CEO 大賞
	2005 年度昌原市ベスト CEO 賞
	2007 年度造船工業技術組織韓国海洋大賞
	2008 年度中国大連市名誉市民
	2008 年度アジア海洋貿易ベスト個人賞
	2009 年度アムステルダム造船企業家/青年企業家賞
	2009 年度韓国管理協会 CEO 賞
	2009 年度韓国経済日報大山管理賞

出所：会社ホームページ

1.4.1.2 副会長

姓 名	Lee, In-Sung
学歴	ソウル国立大学海軍建築及び海洋工程専門学科
主要履歴	現在：STX 造船海洋副会長
外部役職	韓国 Tocoma に在職
	大宇造船及び船用エンジン株式会社セールスディレクター
	大宇造船及び船用エンジン株式会社総務部長
	大宇造船及び船用エンジン株式会社 CEO アシスタント
	DSEC 有限責任公司 CEO
受賞状況	2006 年度韓国工業サービス銅塔賞

1.4.1.3 会長秘書

姓 名	Hong, Kyung-Jin
学歴	ソウル国立大学地理学学士学位
主要職歴	STX 船務有限公司勤務
	STX エネルギー副 CEO
	STX 会社 CEO
	STX エネルギー CEO
	STX 造船海洋 CFO
	現在：STX 造船海洋 CEO

1.4.2 社員

2010 年 5 月時点

正社員	海洋構造物	造 船	合 計
管理者	70	330	400
生産部門	8,120		8,120
品質、健康、安全、環境部門	50		50
工事部門	270	690	960
合計	—		9,530

大連総合造船所社員状況

2010年4月時点

部門	中国		韓国		アウトソーシング	
	管理職	労働者	管理職	労働者	管理職	労働者
海洋構造物及び 船舶建造	1,500	6,790	320	70	6,840	15,520
エンジン/機械/ プロペラ/建設	170	700	70	—	—	940
その他	310	520	140	10	—	980
合計	1,980	8,010	530	80	6,840	17,440

1.4.3 主要機構

番号	機構名称
1	韓国本社
2	ブサン造船所
3	大連造船所
4	欧州造船所
5	ソウル研究開発センター

1.5 企業文化

1.5.1 企業価値観

STX 造船海洋は以下のような戦略的目標で、世界トップクラスの海洋造船会社を目指している。

(1) 財務金融

ハイレベルの運営仕組みを構築する。海洋を開発する。新しい駆動力を発掘する。世界的プロダクトライン戦略を実施する。安定した財務条件を維持する。

(2) 顧客

サービスの質を上げ顧客関係の管理を強化する。競争力のある製品を開発する。

(3) 内部システム

管理システムを構築する。戦略的人的資源管理を実施する。リスク管理システムを構築する。ワールド・マネジメント・システムを構築する。

(4) 学習・成長

核心的な設計技術を発展させる。従業員と雇主間のパートナー関係を強化する。社会的責任を負う。ビジネスルールを守る。

1.5.2 会社の社会責任

1.5.2.1 STX 社会奨学金及び福祉

STX グループは STX 奨学金及び社会福祉制度を設け、グループ会社と関連所属会社が統一でイベントを企画・実施し、最大な社会効果を図っている。

STX 奨学金は学業成績、品行とも良好な学生に奨学金或いは留学支援を提供し、将来に向けて人材を育成する。また学術関連プロジェクトに直接資金援助も行う。

STX 社会福祉は社会の負け組を助けることを目的に、少年及び高齢者、工業事故中での受傷者等を対象とする。その他、環境回復工事も発揮した。

1.5.2.2 STX 家族によるボランティア組織

STX 家族によるボランティア組織は 100 の職員家庭により構成され、主に Gyeongsangnam-do における 3 つのコミュニティ福祉センターにて、老人及び児童を対象にボランティア活動を行っている。当該組織はまた STX 造船海洋会社の資源を利用し、その他社会福祉活動も行っており、本社所在地で社会負け組と会社の発展成果を分かち合える活動も行っている。

1.5.2.3 スポーツと文化活動

K 等級のプロサッカークラブ、Gyeongnam FC の主要創始者である STX グループは国のスポーツ・文化事業に対し大きく支援を行っている。デジタル技術が進んでいる現在、STX はプロ電子競技チームである「STX 魂」を立ち上げた。こういうふうに、STX グループは新興文化と電子競技に深く触れることを通じて、幸せなコミュニティ文化の作りに絶えず貢献をしている。

1.5.2.4 環境保護

STX は鎮海（ジンヘ）附近の Cheonja 山と Shiru 山で、木を植えたり、道路を整備したりする。同時に職員たちは会社近所の掃除、水源浄化等も行い、現地の環境改善を図っている。

1.5.2.5 企業間ウィンウィン-STX 会員組織

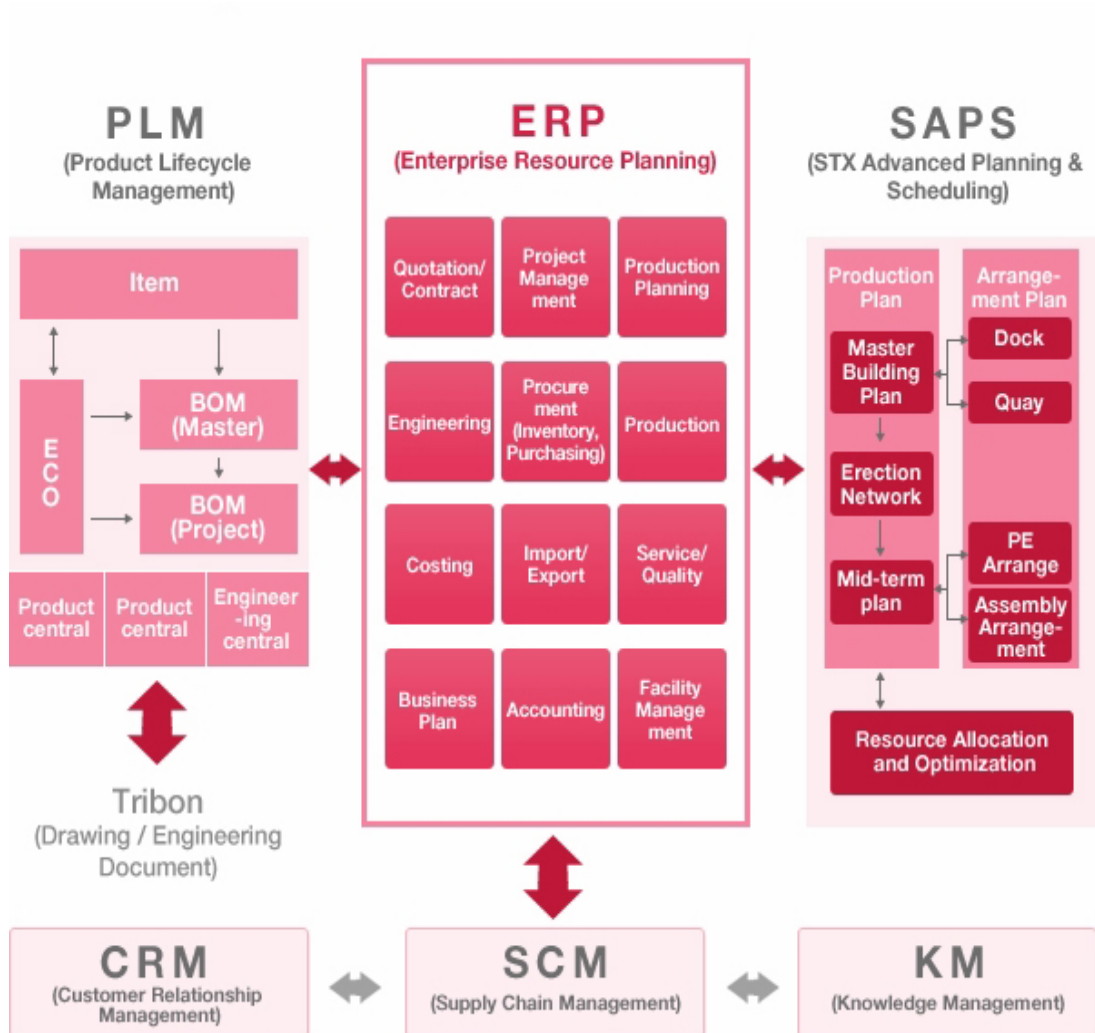
STX 会員組織は STX ビジネス・ネットワーク中での信用良好なパートナーで構成されている組織である。会員メンバーは安定したオーダー契約、緊急物流資金支援、原材料仕入れ及びビジネス情報提供等のサービスを受けることができる。また、STX は会員メンバー連れ、海外調査及びセミナー等にも参加する。STX は中小企業とのウィンウィン関係の構築を誇りに思い、今後ともパートナーとの関係構築及び相互発展のため、尽力を尽くしたいと意思表示。

1.5.3 企業流れの改善

STX は「流れの改善は、企業が変化の激しい現在のビジネス環境に対応する方法であり、

合理的な流れシステムがないと、将来的に客のニーズを満足させることは難しい。」という考え方をしている。流れ改善の目的は、全面的な構造再編を通して、企業のコア競争力を高め、企業の存続を保証することである。

流れ再編構造



第2章 筆頭株主分析

2.1 会社概況（STX Corporation）

STX ビジネスグループの持ち株会社である STX Corporation は、関連会社を大量に投資し、関連会社間で協力し合うことを提唱する。STX Corporation は貿易、資源開発等の世界全体業務において、2010 年まで資産 2,399,000,000 ドル、販売収入 2,400,000,000 ドルを目指している。

2004 年、STX ビジネスグループは会社の経営効率を一層高めるため、筆頭株主仕組みを導入した。STX グループは主に投資を担当しており、関連会社の持株とブランド税により収益を獲得する。同時に STX は新興業務に対する開拓及び資金援助等を通じて、その関連会社の競争力向上を支援する。STX は今後とも持ち株方式で、管理システム及び経営透明度等を改善し、関連会社の健康な発展を図る方針である。

2.2 主要業務

2.2.1 貿易

業務領域	現 状
石炭、石油	主要取引先：大型エネルギー消費者、例えば韓国電力会社、STX エネルギー会社
	燃料貯蔵業務での優位は明らかで、タンカーエンド製品においても一定の地位を占有している。
食糧	糧食派発施設：アメリカ Longview 港に位置している食糧輸出エレベーター、Pyeongtaek 港に位置している食糧ストック施設
	産業一体化：海外農業発展施設、飼育業、食糧加工業、生物エネルギーで生産した食糧
鋼鉄、鉱石及び工業原材料	韓国、中国、日本から鋼材を購入し、韓国及びその他国に販売する。
	原材料は輸入と輸出両方あり、工業用セメント及び鉱石関連業務も行っている。
機械及びプラント	海運設備、材料、プラント設備及び工業設備等を輸出入し、関連会社に製品を提供する。
	世界主要貿易区域で海外業務基地を設立し、世界貿易においてリーダー的役割を果たしている。

2.2.2 造船業務

業務領域	現 状
造船	STX グループの造船及び機械部門と資源の調整を行う。
	優位：高付加価値の船舶、例えば液化天然ガス（LNG）運搬船、超大型タンカー及びコンテナ船等を建造する。
	造船及び海運業務はブラジル、トルコ、イラン等まで及んでいる。
エンジン	海外市場における主要業務：船用エンジン、発電エンジン及び STX エンジンと STX 重工業向け生産の船用機器等
	現有市場：南アメリカ、中東、ヨーロッパ等；今後開発予定市場：ブラジル等
販売及び調達	各種船舶を購入したり販売したりして、船隊の最適化を図る。
	外国子会社及び関連機構とレンタル契約をし、船隊の最適化を図る。

2.2.3 船舶管理業務

業務領域	現 状
船舶管理	業務範囲：船舶メンテナンス、新造船、貨物管理、海洋技術関連サービス、海運保険、職員管理。
	フィリピンにてトレーニングセンターを設立し、新入社員をトレーニングする。
サービス	船舶管理会社と協力し、SMC、STX 海洋センターを設立。
	STX エンジン、STX 撫順エンジン、STX 重工、STX（大連）造船にアフターサービスを提供する。

2.3 株主構成

STX グループは授権株式数が 1 億株で、1 株あたり 2,500 ウォンである。2009 年 12 月 31 日まで、同グループ発行の普通株は合計 49,941,398 株で、124,853,000 千ウォンに達し、無議決権株の優先株は合計 147,000 千ウォンに当たる。

2008 年 12 月 31 日から 2009 年 12 月 31 日までの STX グループ主要株主は次のとおりである。

株 主	2009 年		2008 年	
	持株数	持株比率 (%)	持株数	持株比率 (%)
POSTEC Co.,Ltd	11,546,610	23.12	7,900,000	19.78
Duk-Soo Kang	6,490,000	12.99	4,770,000	11.94
Geveran Trading Co.,Ltd.	1,408,114	2.82	2,388,224	5.98
韓国発展銀行	2,403,290	4.81	2,348,176	5.88
その他	28,095,026	56.26	22,536,640	56.42
合計	49,943,040	100	39,943,040	100

2009 年は 2008 年に比較し、第 1 と第 2 大株主の持ち株絶対値及び全体における割合とも若干増加した。反面、第 3 位である Geveran Trading Co.Ltd は絶対値及び全体における割合とも減少した。その他、第 4 位である韓国発展銀行の持ち株数絶対値は増加したものの、全体における割合は少し減少した。

2.4 融資状況

2008 年 12 月 31 日から 2009 年 12 月 31 日までの STX グループ長期借金は次のとおりである。

単位：千ウォン

貨幣単位	金融機関	12/31/2009 利率 (%)	2009	2008
ウォン	Korea Resources Corporation	2.70~3.75	2,901,000	1,675,000
	Yu Hwa Securities	9.50,9.70	30,000,000	—
	Golden bridge Securities	7.40,7.50	30,000,000	—
		—	62,901,000	1,675,000
その他	Korea Resources Corporation	2.70~4.25	10,889,038	5,497,790
	Korea National Oil Corporation	2.25	6,260,354	6,117,202
		—	17,149,392	11,614,992
		—	80,050,392	13,289,992

2008年12月31日から2009年12月31日までのSTXグループ短期借金は次のとおりである。

単位：千ウォン

金融機関	12/31/2009 利率 (%)	2009	2008
The Korea Development Bank	—	—	50,000,000
NH Bank	7.54	50,000,000	50,000,000
Woori Bank	6.70	20,000,000	—
Kwangju Bank	7.86	10,000,000	—
Yu Hwa Securities	9.95	10,000,000	—
Hanyang Securities	10.50	10,000,000	—
The Korea Development Bank	8.88	100,000,000	—
Public Debenture	8.80	100,000,000	—
The Korea Development Bank	7.80	50,000,000	—
Woori Bank	6.60	30,000,000	—
Less:Discount	—	(52,505)	—
	—	379,947,495	100,000,000
Woori Bank	5.28	192,225,851	167,666,195
Hana Bank	4.69	42,371,898	57,927,065
The Korea Development Bank	4.80	68,849,431	80,357,707
Shinhan Bank	5.08	57,987,310	39,555,449
China Construction Bank Corporation	—	—	8,973,353
NH Bank	4.19	29,880,649	5,971,149
	—	391,315,139	360,561,918
	—	771,262,634	460,561,918

その以外、オリックスグループは大連長興島臨港工業区で造船プロジェクトを投資している韓国STXグループの17%の持株比率を有しており、アジア市場で影響を持つ。

2.5 役員情報

2.5.1 取締役会長

姓 名	Kang, Duk-Soo
学歴	明知大学商業管理学士学位
	ソウル国立大学世界管理トレーニング計画証書
	昌原国立大学商業管理荣誉博士学位
主要職歴	双龍重工 CEO
	STX 株式会社 CEO
	STX 船務/STX 造船海洋/STX エンジン/STX エネルギーCEO
	現在：STX ビジネスグループ取締役社長
外部役職	大邱工商業議会議員
	昌原工商業議会議員
	韓国船主協会副主席
	韓国造船協会総監督
	現在：韓国工業連盟副主席
	韓国雇主連盟副主席
	韓国国際貿易連盟副主席
受賞状況	2003 年度韓国工業サービス銀タワー賞
	2003 年度日本管理協会世界 CEO 大賞
	2005 年度昌原市ベスト CEO 賞
	2007 年度造船工業技術組織韓国海洋大賞
	2008 年度中国大連市名誉市民
	2008 年度アジア海洋貿易ベスト個人賞
	2009 年度アムステルダム造船企業家/若い企業家賞
	2009 年度韓国管理協会 CEO 賞
	2009 年度韓国経済日報大山管理賞

2.5.2 取締役会副会長

姓 名	Lee Jong-chul
学歴	韓国大学法律専門
主要職歴	STX 海洋運輸公司第二業務区執行役員
	STX 海洋運輸公司 CEO
	STX 海洋運輸公司副会長
	STX 会社副会長
外部職務	韓国船主協会副主席及び船舶事務委員会主席

2.5.3 CEO

姓 名	Kim Dae-yoo
学歴	漢陽大学材料科学工程専門
主要職歴	STX 会社副 CEO
	STX 海洋運輸会社副 CEO
	STX 海洋運輸会社 CEO
	STX 会社 CEO

出所：会社ホームページ

2.5.4 取締役会メンバー

氏 名	職 務
Duk-Soo Kang	会長
Jong-Chul Lee	副会長
Sang-kyu Kim	CEO/監査長
Yong-Hee Byun	副 CEO/ CFO
Young-Sup Yun	社外取締役
Sung-Kun Rhee	社外取締役
Chang-Woo Lee	社外取締役
Jong-Sik Kim	社外取締役
Yoon-Jae Baek	社外取締役
Hwa-Jin Kim	社外取締役

出所：会社ホームページ

2.6 職員情報

STX Corporation は韓国で子会社 15 社（うち上場会社が 5 社）及び 70 余の海外支店を持っており、職員人数は合計 46,000 人強である。

2.7 生産規模

STX 会社は 2009 年金融危機の影響で販売収入は前年比減少の 22,257 億ウォンを実現した。資産総額は 25,236 億ウォン、株主利益は 16,788 億ウォンである。

単位：10 億ウォン

項目	2009 年	2008 年	2007 年
销售收入	2,225.7	2,418.9	1,256.7
資産総額	2,523.6	2,186.0	1,290.5
股东权益	1,678.8	1,254.0	872.1

出所：会社年報

2009 年 12 月 31 日時点、STX が投資した企業の経営状況

単位：百万ウォン

投資した企業の名称	総資産	総負債	売上高	純利益 (損失)
STX Offshore and Shipbuilding Co.,Ltd	7,622,834	6,520,234	4,191,257	-155,677
STX Pan Ocean Co.,Ltd	5,269,848	2,832,999	4,618,203	-91,874
STX Energy Co.,Ltd	604,445	285,049	527,509	37,823
STX Engine Co.,Ltd	1,707,995	1,151,251	1,607,664	60,458
STX Heavy Industry (Fushun) Co.,Ltd	174,166	68,941	68,941	3,349
STX (Dalian) Shipbuilding Co.,Ltd	1,760,054	439,582	439,582	-112,751
STX (Dalian) Precision Engineering Co.,Ltd	375,482	15,316	15,316	-9,467
STX Middle East FZE	6,071	22,473	22,473	348
STX Mongolia LLC	7,718			-1,514
Cocref Reit 11	220,772	23,649	23,649	8,754
STX Solar Co.,Ltd	118,919	3,054	3,054	-1,763

投資した企業の名称	総資産	総負債	売上高	純利益 (損失)
STX Japan Co.,Ltd	23,827	214,081	214,081	1,205
STX Resort Co.,Ltd	75,710	15,527	15,527	-4,405
STX Real Property Development (Dalian) Co.,Ltd	124,290	44,452	44,452	4,972
STX (Shanghai) Corporation	3,472	1,576	1,576	334
STX Brazil Trading Ltd	703	1,209	1,209	130
STX America Inc	2,348	30,761	30,761	9

2.8 財務状況

2.8.1 貸借対照表

(単位：千ウォン)

項 目	2007 年度	2008 年度	2009 年度
一、資産			
流動資産			
現金預金	262,671,938	150,103,296	264,592,426
短期投資金	50,640,382	59,845,101	36,417,989
受取手形	128,497,501	291,450,317	223,244,650
売掛金	459,030	12,988,751	26,381,092
その他未収入金	4,739,790	25,145,207	21,056,278
前払金	45,125,815	85,893,779	60,396,525
貯蔵品	21,084,396	238,693,841	206,910,382
貸倒引当金	1,409,425	430,471	8,063,879
その他流動資産	10,423,598	34,261,188	21,367,334
流動資産合計	525,051,875	898,811,951	868,430,555
	-----	-----	-----
長期投資			
長期投資	624,267,277	1,062,630,111	1,354,735,866
その他			

項 目	2007 年度	2008 年度	2009 年度
	-----	-----	-----
固定資産			
固定資産純額			
その他			
固定資産合計	87,929,859	127,599,743	177,280,650
	-----	-----	-----
無形資産及びその他			
無形資産	1,198,131	1,126,162	997,353
長期貸倒引当金			
その他	52,080,674	95,831,076	122,154,800
無形資産及びその他資産合計	53,278,805	96,957,238	123,152,153
	-----	-----	-----
資産合計	1,290,527,816	2,185,999,043	2,523,599,224
	-----	-----	-----

項 目	2007 年度	2008 年度	2009 年度
二、負債			
流動負債			
短期借入金	277,943,134	460,561,918	771,262,634
支払手形	107,939,608	193,846,089	220,003,959
未払費用			
前受金	44,475,034	126,865,582	66,381,990
未払費用（給料）			
未払配当金	11,851	11,294	11,750
未払税金	3,488,731		3,886,649
その他未払費用	32,295,633	14,633,574	23,491,567
その他流動負債	24,521,550	44,640,299	272,906,809
流動負債合計	490,675,541	840,558,756	1,357,945,358

項 目	2007 年度	2008 年度	2009 年度
	-----	-----	-----
長期負債			
長期借入金	4,148,649	13,289,992	80,050,392
社債	301,474,641	251,886,520	99,856,174
その他	75,847,208	148,232,225	140,967,533
長期負債合計	381,470,498	413,408,737	320,874,099
	-----	-----	-----
負債合計	872,146,039	1,253,967,493	1,678,819,457
	-----	-----	-----

項 目	2007 年度	2008 年度	2009 年度
三、純資産			
資本金	86,521,938	100,000,000	125,000,000
資本剰余金	225,561,263	430,716,197	500,770,651
利益剰余金	12,519,930	13,819,930	15,019,930
繰越利益剰余金	73,164,433	81,254,022	- 89,589,404
その他	20,614,213	306,241,401	293,578,590
純資産合計	418,381,777	932,031,550	844,779,767
	-----	-----	-----
負債及び純資産合計	1,290,527,816	2,185,999,043	2,523,599,224
	-----	-----	-----

2.8.2 損益計算書

(単位：千ウォン)

項 目	2007 年度	2008 年度	2009 年度
一、営業収益	1,256,680,945	2,418,949,621	2,225,676,108
売上高	1,098,700,749	2,281,604,859	2,135,116,538
その他	157,980,196	137,344,762	90,559,570
	-----	-----	-----

項 目	2007 年度	2008 年度	2009 年度
二、営業費用	1,117,974,081	2,345,351,440	2,321,079,070
売上原価	1,032,745,138	2,207,304,805	2,061,844,258
販売費及び一般管理費	83,675,420	89,666,021	99,400,705
その他	1,553,523	48,380,614	159,834,107
	-----	-----	-----
三、営業外損益	-20,287,160	-42,012,540	-127,339,673
財務損益	-14,780,742	-24,789,822	-59,168,270
為替業務損益	-783,266	-30,520,394	-64,461,211
投資有価証券売却益	-1,817,295	7,468,827	-251,323
その他	-2,905,857	5,828,849	-3,458,869
	-----	-----	-----
四、利益総額	118,419,704	31,585,641	-222,742,635
減：所得税	32,141,070	8,327,307	-50,943,957
	-----	-----	-----
五、純利益	86,278,634	23,258,334	-171,798,678

2.8.3 キャッシュフロー計算書

(単位：千ウォン)

項 目	2007 年度	2008 年度	2009 年度
I 営業活動によるキャッシュフロー			
税引前当期純利益	86,278,634	23,258,334	-171,798,678
減価償却費	5,419,887	5,551,204	6,579,551
為替関連業務収益	762,169	-18,829,074	-12,708,809
デリバティブ価格評価	-10,237	-680,259	-1,087,974
投資有価証券評価損	-76,860,888	-8,416,521	116,858,338
販売保証評価損	0	-12,138,319	0
仕入債務の増減額	-103,986,195	-142,960,020	139,018,226
たな卸資産の増減額	24,080,555	-217,609,445	31,783,458

項 目	2007 年度	2008 年度	2009 年度
デリバティブ価格変動	-85,847	10,237	680,259
販売保証増減額	0	0	12,138,319
仕入債務増減額	51,274,412	98,521,448	26,905,725
前預け金増減額	37,793,615	82,390,548	-60,483,592
その他	-34,881,940	-147,811,450	-17,853,721
営業活動によるキャッシュフロー	-10,215,835	-338,713,317	70,031,102

II 投資活動によるキャッシュフロー			
短期金融商品価格変動	777,283	-26,016,726	12,889,303
長期金融商品価格変動	-18,000	-10,583,740	-18,745,166
有価証券投資増減額	-152,019,210	-83,679,276	-501,986,665
固定資産投資増減額	-10,037,162	-16,458,686	-42,597,893
その他	-16,115,375	11,623,922	22,020,718
投資活動によるキャッシュフロー	-177,412,464	-125,114,506	-528,419,703

III 財務活動によるキャッシュフロー			
短期借金増減額	103,583,628	166,094,660	328,222,399
長期借金増減額	-50,704,647	3,742,113	32,251,529
会社債券増減額	249,055,700	-20,000,000	99,799,500
配当金の支払額	-8,147,190	-12,672,580	-11,816,390
その他	8,546,117	214,094,989	124,420,693
財務活動によるキャッシュフロー	302,333,608	351,259,182	572,877,731

IV 現金及び現金同等物の増減額	114,705,309	-112,568,642	114,489,130
V 現金及び現金同等物期首残高	147,966,629	262,671,938	150,103,296
VI 現金及び現金同等物期末残高	262,671,938	150,103,296	264,592,426

2.8.4 財務分析

項目	同業界 平均値	2007年度 評価	2008年度 評価	2009年度 評価
一、借金返済能力				
流動比率 (%)		107.0	106.9	64.0
当座比率 (%)	72.6	93.2 普通	68.3 普通	43.7 やや低い
インタレスト・カバ レッジ・レシオ	3.8	6.8 良好	1.7 不良	-1.8 不良
資産負債率 (%)	73.5	67.6 優秀	57.4 優秀	66.5 普通

項目	同業界 平均値	2007年度 評価	2008年度 評価	2009年度 評価
二、収益性分析				
売上高利益率 (%)	6.1	6.0 普通	3.3 やや低い	3.4 普通
コスト (費用) 利益 率 (%)	6.1	10.4 良好	1.3 やや低い	-9.3 不良
資本利益率 (%)	5.0	10.8 優秀	3.6 普通	-5.6 不良
総資本利益率 (%)	7.2	20.6 優秀	2.5 やや低い	-20.3 不良

項目	同業界 平均値	2007年度 評価	2008年度 評価	2009年度 評価
三、効率性分析				
棚卸資産回転率	3.5	49.0 優秀	9.2 良好	10.0 良好
経営資本回転率	5.5	2.1 普通	2.5 普通	2.5 普通
総資本回転率	8.1	0.9 不良	1.0 不良	0.8 不良
売上債権回転率	3.5	8.5 優秀	7.5 優秀	8.6 優秀

項目	同業界 平均値	2008年度	評価	2009年度	評価
四、成長性分析					
売上高成長率 (%)	11.5	107.7	優秀	-6.4	普通
株主資本成長 (%)	105.2	222.8	優秀	90.6	優秀
利益成長率 (%)	6.3	12.7	やや低い	-1.4	やや低い
資本金成長率 (%)	21.3	122.8	優秀	-9.4	不良
総資産増加率 (%)	5.6	69.4	優秀	15.4	良好

2.9 業務状況

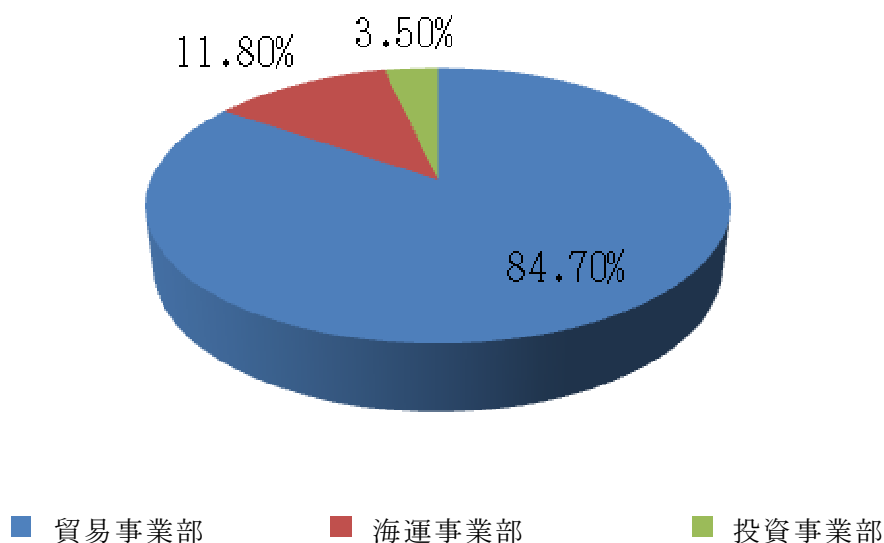
2008、2009年主要業績指標

(単位：千ウォン)

項目	2009年	2008年
営業収入	1,906,197	2,194,656
営業利益	-81,709	66,774
税前利益	-190,770	28,657
純利益	-147,138	21,102
利子、税金、一価償却費引抜前利益	-76,073	71,810

出所：会社年報

2009年 各事業部売上高割合図



2.10 将来展望

STX Corporation は現在海外投資業務に力を入れている。石油、天然ガス及び石炭、また世界各地において鉄鉱石等鉱物の開発事業を積極的に展開している。その例に、現在視察中であるウズベキスタンにおける天然ガス開発プロジェクト、オーストラリアで開発を行っている鉄鉱と炭鉱事業、インドネシアにおける炭鉱発掘などが挙げられる。

STX Corporation は SIX エネルギーと共同で中国平頂山炭鉱開発に投資した。鉱石資源関係業務には、アフリカマダガスカル島と共同でニッケル鉱を開発。STX エネルギーは海外に大量な専門家を確保している。

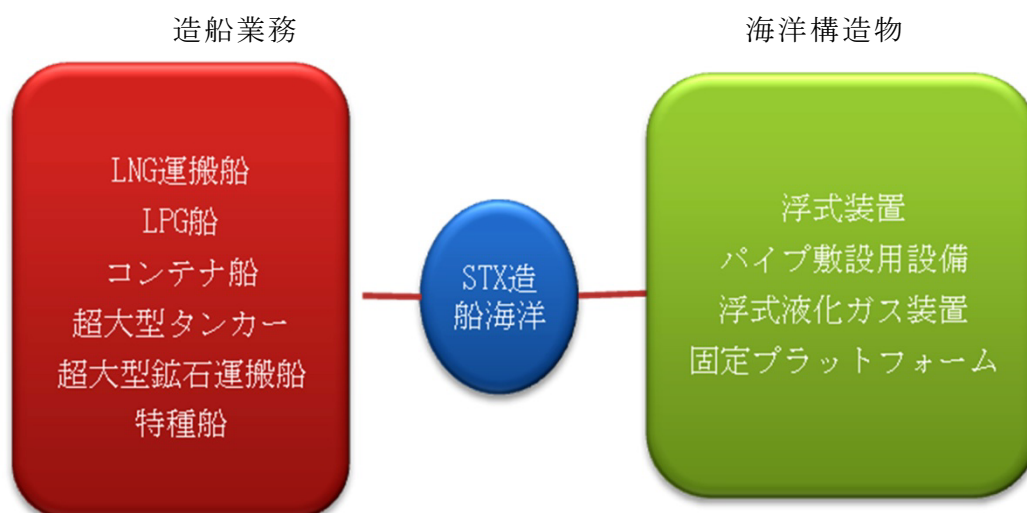
STX Corporation SIX エネルギーと共同でオフショア石油と天然ガス新規市場を開拓している。STX は、今後とも引き続き海外業務の範囲を中央アジア、ヨーロッパ、アフリカおよび東南アジア等資源の豊富な地域に拡大して行く方針である。



資源の豊富な国へ業務をシフト

第3章 主要製品及び造船所概況

3.1 主要製品



3.1.1 液化天然ガス（LNG）運搬船/液化石油ガス（LPG）船

STX 造船海洋の高付加価値船である LNG 船の建造技術は世界から認められている。当社は 2005 年、国際主要船舶評価機構から建造技術許可権を購入し、LNG 船建造関係業務をスタートし、その後の継続した技術開発への投資と市場開拓等を通して、2007 年、173,600 m³の液化天然ガス（LNG）運搬船の建造に成功した。

液化天然ガス運搬船の建造にあたり、STX 造船海洋は海上組立技術の ROSE（Rendezvous on the Sea Erection）という海上造船方法を開発し、浮きドックで 6,500 トンの超大型船舶の建造が可能になった。当該造船技術は、船舶建造時間を短縮すると共に、造船コストも削減し、STX 造船海洋の当該領域での競争優位性を確保した。



主要建造実績：

174KLNGC / 157KLNGC / 38,000CBM
液化石油ガス / アンモニア態窒素 / エチレンタンカー / 23,000CBMLPG 船 /
9,000CBM エチレン / LPG / アンモニア
態窒素 / エチレンタンカー

2009 年、STX 造船海洋は STX ヨーロッパとの協力で、北極海方面で使う LNG（液化天然ガス）砕氷船の開発に成功した。STX 造船海洋は引き続き、LNG 船の開発、設計及び建造方法等を改善し、LNG 船の世界市場における地位を更に高めて行く方針である。

3.1.2 超大型タンカー

2007 年 STX 造船海洋は高い技術力で、ハンディーサイズ・プロダクトタンカー及びパ

ナマックス・プロダクトタンカーの市場シェアを確保することに成功し、その後また、もっと付加価値の高い超大型 VLCC の市場進出も始めた。

STX 造船海洋が建造したプロダクトタンカーは、原油、精製油、化学製品等の輸送に使われている。当該種船舶は船体が頑丈な二重構造になっており、世界主要船舶評価機構から安全かつ環境に優しい船舶に評価されている。



主要建造実績：

320,000DWT の VLCC /

115,000DWT タンカー / プロダクトタンカー /

74,200DWT タンカー / プロダクトタンカー /

51,000DWT プロダクトタンカー / ケミカルタンカー /

38,300DWT プロダクトタンカー / ケミカルタンカー /

35,700DWT プロダクトタンカー

STX 造船海洋の 2010 年経営状況は、2009 年の厳しい造船不況を経てもその見込みは依然として楽観的である。2010 年初には、イタリアの L.G.R 会社から 50,800DWT のプロダクトタンカー 2 隻を受注した。STX 造船海洋はこれからも引き続き、市場開拓能力及び新技術の開発に注力し、高付加価値大型船舶の受注を拡大して行く方針である。

3.1.3 コンテナ船

STX 造船海洋は高い品質と市場性、また相違性のある技術で 2,500-3,500TEU のコンテナ船市場でトップの地位を占めている。2007 年、初めて 13,000TEU コンテナ船を受注してから、僅か 1 年間で超大型コンテナ船建造市場でリーダー的位置に付き、22,000TEU コンテナ船まで建造できるようになった。

2009 年、STX 造船海洋は関連会社である STX ヨーロッパと共同で、大型砕氷コンテナ船を建造した。こういう船型は混合燃料推進システムを利用し、独自で北極海域を航行することができる。当該航路はアジアとヨーロッパを結ぶ主要航路になりつつある。



主要建造実績：

22,000TEU コンテナ船 /

13,000TEU コンテナ船 /

5,000TEU コンテナ船 /

3,500TEU コンテナ船 /

2,850TEU コンテナ船 /

2,600TEU コンテナ船 /

STX 造船海洋は特色のあるコンテナ船市場を引き続き開拓し、超大型コンテナ船市場での競争力を一層高め、世界一流の造船所を目指している。